

建設コンサルタント

梅澤 駿

株式会社地域開発研究所 研究部

卒論テーマ わが国の港湾における臨港地区の分区指定の動向に関する研究
—1985年度から2000年度までの「都市計画年報」を対象として—
(岡田・落合・田島研究室)

修論テーマ わが国の臨港地区における分区制度の運用方策に関する研究
—国際戦略港湾と国際拠点港湾の全23港に立地する
一般開放施設を通して— (岡田・落合・田島研究室)



好きな「まち」
門司港

出身高校
日本大学
三島高等学校

1

私は港湾分野を専門とする建設コンサルタント企業である株式会社地域開発研究所に入社し、研究員として、港湾における物流・賑わい創出による地域活性化に関する調査・計画づくりを行っています。業務では、統計データの分析、自治体や関係企業等へのヒアリングやアンケート調査によって、地域や港湾の特徴や課題を整理し、施策の方向性を提案しています。業務成果を活かして、学会等の研究発表を行い、調査・説明能力を研鑽する毎日です。全国各地の港湾やまちを訪れ、地域ごとの魅力や課題を発見できることも、この仕事の魅力の一つです。また、自分の調査や提案が地域の将来につながることにやりがいを感じています。

2

仕事では、全国各地の港湾を対象に業務を担当しています。地域ごとの特色や魅力を深く理解したうえで、地域の発展に貢献できる提案力を身に付けることを目標としています。

今後はAIやデジタル技術がさらに発展し、多くの業務が効率化されると思います。その中でも、人と人との対話を通じて課題を整理し、地域住民、企業、行政などの各関係者の思いを形にしていく役割はますます重要になると考えています。

将来的には、地域の未来について誰よりも真剣に考え、その発展に貢献できたと胸を張れる仕事を一つでも多く手掛けられるよう、日々知識と経験を積み重ねていきたいと思っています。



港湾に関する調査研究の
成果を学会で発表

3

学生時代は研究室活動に力を入れていました。研究活動、実際のまちで行う研究室プロジェクトに意欲的に取り組んできました。特に、研究室プロジェクトでは「荒川区景観まちづくり塾」に参加し、地域の方々と荒川区特有の景観について考え、対話を通じて異なる価値観や視点に触れることができました。また、ワークショップの中で自分たちの意見として形にするなかで、相手に分かりやすく伝えることの難しさと面白さを学ぶとともに、対話を通じて、まちづくりは一人ではなく、多くの人の思いをつなぎながら進めていくものだ実感しました。この経験が、現在の仕事を志すきっかけの一つになっています。



地域の方々と景観に
ついて意見交換

4

進路や就職先を考える際、「何になりたいか」だけでなく「どこに興味を持ち、どんな課題にどう関わりたいか」を考えてみることを、後輩たちにおすすめています。私も「研究員として調査や計画に携わりたい」と、学生時代から明確にイメージできていたわけではありませんでした。どんな選択にも答え合わせはありません。そして、結果は後からついてくるものだと思います。私自身も、自分の選択が正しかったのか悩むことが何度もありました。しかし、その時々で自分なりに考え、選択してきた経験が今の自分を支えています。だからこそ、周囲と比較せず、自分で選んだ道を信じて進んでほしいと思います。

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！